

# Hitachi Application Reliability Centers (HARC)

Get Your Cloud, Your Way.

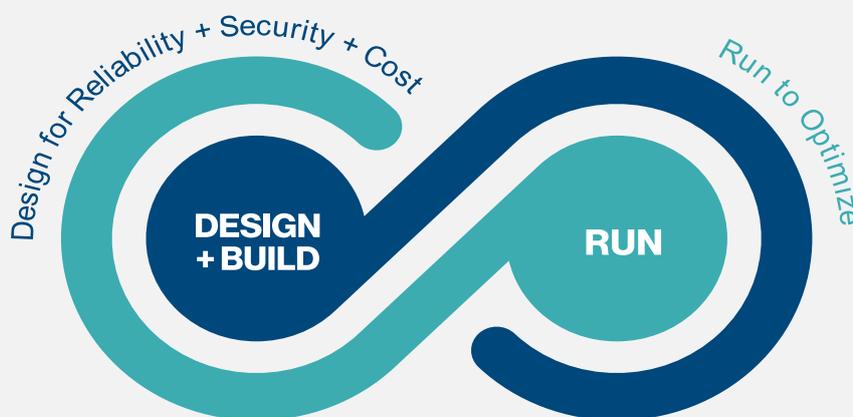
## 概要

多くの企業が、コスト削減とビジネス俊敏性を期待してクラウドの採用を進めている一方で、無秩序に拡大していくクラウド環境は「システムの信頼性 / 安定性の低下」、「ランニングコストの増加」といった新たな課題を生み出しており、企業はこれらの対処に頭を悩ませています。

日立は、日立ヴァンタラがグローバル市場で先行提供し、大企業での導入実績を獲得してきたHitachi Application Reliability Centers(HARC)を日本市場に向けて展開します。グローバル市場において実績を積み重ねてきた先端技術・ノウハウを活用した、SRE\*1 / ソフトウェアエンジニアリングベースのサービス提供を通じて、日本企業のクラウド運用モデルの変革、および継続的な運用改善を支援していきます。

\*1 SRE(Site Reliability Engineering): サイロ化されている開発チームと運用チームの壁を取り払うDevOpsの実践と、ソフトウェアエンジニアリングの手法を用いることにより、システムのアジリティ(機敏性)を生かしたまま、リライアビリティ(信頼性)、レジリエンス(回復性)とセキュリティを効果的に高めるためのシステム運用とサービス管理の方法論

## Operations Re-imagined



信頼性 / セキュリティ /  
コストを考慮した設計

日立のIP /  
差別化された人財

インシデント対応の  
効率化 / 継続的な自動化

## 背景 / HARCのご紹介

### クラウド運用の現状 – お客さまの課題

多くの企業が、コスト削減とビジネスの俊敏性への期待を胸にクラウド化を急ぎました。しかし、無秩序に拡大するクラウド環境の管理は複雑で、企業はコスト増大とクラウドのパフォーマンス管理に悩んでいます。これらの課題は大きく、以下の3点に集約できます。

1

レガシーな管理のやり方から脱却できず、クラウド移行後に、**信頼性 / 安定性、セキュリティに関する問題が多発**している

2

**サービスの全体像と問題の影響範囲を把握できない**状況で、運用管理チームがトラブルの火消し対応に忙殺されている

3

クラウドの利用状況 / トレンドを見える化できていないため、**ランニングコスト増加の原因 / 対処法が分からない**

システムの信頼性  
/ 安定性の低下

クラウドのランニング  
コストの増加

「1」と「2」に関して、クラウドの運用チームと開発チームの優先順位 / KPIは異なる場合が多く、時には相反することもあります。この場合、機能追加に伴ってアプリケーションは不安定化していき、信頼性 / 安定性の確保が難しくなっていくのと同時に、運用に対する自動化が進まないため対応工数が急激に増大していきます。また「3」に関しては、開発チームが統制の取れていない非効率な方法でクラウドサービスをプロビジョニングすることで、総保有コスト(TCO)が当初の想定を超えて増加してしまい、予算を超過する可能性があります。

### HARCのご紹介

HARCは、上記で述べた課題解決のため日立ヴァンタラが2022年2月に立ち上げた、グローバル市場向けのブランドです。HARCは、クラウドネイティブ向けのプロフェッショナル / マネージドサービスの名称であるのと同時に、サービス提供 / 顧客協創のための拠点、および組織の名称です。

HARCは、SREをベースとして、ソフトウェアエンジニアリングの手法を用いてクラウドネイティブ運用の信頼性 / 安定性向上、および継続改善を支援するサービスであり、そのポイントは以下の3点となります。



#### 可視化 / 自動化

データドリブンでの判断と  
運用の徹底的な自動化



#### 継続的な改善

運用から開発への継続的な  
フィードバックによる継続改善



#### 開発と運用の連携強化

開発チームと運用チーム  
のコラボレーション促進

### グローバル向け先行提供での導入実績

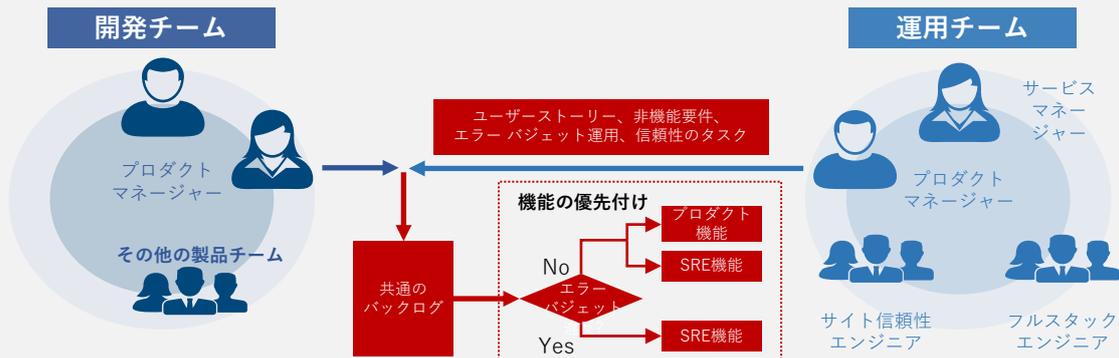
日立ヴァンタラが提供するHARCは、2022年のサービス開始から約1年間で金融機関、小売流通業、製造業のグローバルなお客さまを中心に約20社の導入実績を獲得してきました。グローバル市場で実績を積んだ先端技術・ノウハウ、およびオフショアリソースの活用によって、お客さまの運用の継続改善を支援しています。

## HARC の特長

HARCでは、開発チームと運用チームが責任を共有しながら、フルスタック(インフラ / アプリケーション)の管理を実施することで、「クラウドシステムの信頼性 / 安定性向上」と「クラウドに対するランニングコストの最適化」を実現します。サービスの特長は以下の3点となります。

### ☑ クラウド運用モデル

開発チームと運用チームが責任を共有しながら、共通のバックログで共同作業することによって、アプリケーション開発チームとクラウド運用チーム間に継続的なフィードバックループが生まれます。そのため、製品の機能開発と信頼性向上のバランスを取りつつ、優先度を同期させることができます



### ☑ インシデント管理、オブザーバビリティ / 自動化

段階的なエスカレーション(L1 > L2 > L3)ではなく、DRI(インシデントの直接的な責任者)への直接の依頼でコミュニケーションコストを最小化し、問題解決を迅速化できます。また、自動化を徹底することで、運用の成熟度レベルを「反応的」から「予測的 / 予防的」に進化させることができます



### ☑ クラウドコスト管理

現状のクラウドコスト分析(アセスメント)、コスト最適化に向けた施策の提案 / 実装、および継続的なコストの監視 / 管理(マネジメント)という3段階のフェーズを通じて、クラウドへの投資コストの最適化 / 削減を支援します



- クラウドに対する総コストの把握
- パフォーマンスのベンチマーク
- 利用リソースの適正化 / クリーンアップ
- 利用サービス / アーキテクチャの適正化
- 顧客内の各部門と連携した、継続的なコスト最適化
- アジリティとガバナンスの両立

## HARCの顧客導入事例 / 提供サービス

## HARCの顧客導入事例(グローバル市場向けの先行提供)

2022年2月のサービス開始以降、約20社のグローバル大企業にクラウドネイティブな運用サービスを提供しており、システム信頼性 / 安定性の向上とクラウドコストの低減 / 最適化の実績を積み重ねています。

大手ドラッグチェーン店	大手製薬会社	大手空調設備会社
		
<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリッククラウドへのシステム構築後に、想定外の信頼性 / 安定性低下を経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドコストの肥大化 (クラウド移行率20%の時点で、予算の100%を消費)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保守員向けのグローバルなシステム(24x7)にトラブルが多発し、開発が大幅遅延</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>障害復旧時間を<b>30%削減</b></li> <li>可用性を95%から<b>99%に向上</b></li> <li>クラウドコストを<b>20%以上削減</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可用性を<b>99%に向上</b></li> <li>クラウドコストを<b>30%削減</b> (年間で\$17M+削減)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可用性を95%から<b>99%に向上</b></li> <li><b>90%以上</b>の問題を事前検知 / 対処</li> <li>クラウドコストを<b>25%以上削減</b></li> </ul>

## HARCの提供サービス

「アドバイザリ」、「デザイン」、「運用管理」、「クラウドコスト管理」という4種類のカテゴリで各種のサービスを提供しており、お客さまの状況 / ニーズに応じて適切なものを適用できます。

## アドバイザリサービス

クラウド運用管理DXをご支援するコンサルティングサービス

## デザインサービス

高品質・高信頼なシステムの設計をご支援するエンジニアリングサービス

## 運用管理サービス

効率的かつ効果的なクラウド運用管理を実現するマネージドサービス

## クラウドコスト管理サービス

クラウド利用料を管理し、最適化をご支援するサービス

・本資料に記載の製品・サービス仕様は、2023年6月現在のものです。改良などにより予告なく変更することがあります。

詳細・お問い合わせは、営業担当員または下記へ

株式会社 日立製作所 マネージドサービス事業部

2023.06

■インターネットでのお問い合わせ

<https://www.hitachi.co.jp/cloud/service/harc/index.html>